

## 城の歴史

興国寺城は、長享元年（1487）伊勢新九郎盛時（北条早雲）が今川氏親より興国寺城と富士郡下方十二郷を与えられ、伊豆韮山へ攻め込む足がかりとした場所として伝わります。伊豆を平定した彼はその後約100年間続く戦国大名、北条氏の祖となりました。

それから約半世紀、天文18年（1549）に城地は今川氏のものになり、興国寺を移転させて、その跡地に本格的な城を築きました。さらに今川氏衰退後も興国寺城は東駿河の要地として、武田氏、徳川氏、中村氏、天野氏と引き継がれていきました。

## 城の特徴

興国寺城は愛鷹山麓の裾を通る根方街道に接し、南方に浮島沼が広がる天然の要地に築かれた戦国時代から江戸時代初頭にかけての城郭です。

戦国時代の興国寺城は、尾根を巧みに活かし、さらにそこから土を盛ったり、堀を掘ったりするいわゆる「土造り」の城でした。また城域はいつの段階でも今と同じ広さがあったわけではなく、戦時・平時など、その時の情勢にあわせて、広がったり狭まったりしていたことが発掘調査から判明しています。

しかし、戦国時代末から江戸時代初頭のころには、堀に石垣が施され、さらに城内に石の基礎を持つ建物などが建てられるようになり、石を用いた城へと変化していきました。今残っている城の姿は基本的には戦国時代の姿を引き継ぎながらも、戦国時代末から江戸時代初期にかけて整えられたものと考えられます。



西櫓台より伊豆を望む

# 国指定史跡

# 興国寺城跡

# 跡

## 続日本百名城

沼津市教育委員会



## 興国寺城跡までのアクセス

### 公共交通機関をご利用の場合

- ・JR沼津駅南口から富士急行バス「東平沼」行又は「富士駅」行で「東根古屋」下車徒歩5分
- ・JR原駅からミューバス原駅循環東回りで「東根古屋」下車徒歩6分

### 自家用車をご利用の場合 <住所：沼津市根古屋>

- ・駿河湾沼津スマートIC(下り)→県道22号線→左折→根古屋交差点直進→東根古屋バス停左折→興国寺城跡
- ・愛鷹スマートIC(上り)→右折→直進→県道22号線→右折→興国寺城跡

### JR原駅から徒歩30分

発掘調査で見つかった遺構の写真や出土遺物を展示しています。(平日のみ)

## 国指定史跡 長浜城跡にも行ってみよう



長浜城跡ってどなたところ？



沼津駅より路線バスで40分、「長浜城跡前」下車  
沼津市内浦長浜174-6(駐車場)



沼津市文化振興課公式FB



沼津市観光ポータル

### 編集・発行

沼津市教育委員会事務局文化振興課 沼津市文化財センター  
〒410-0106 静岡県沼津市志下530 ☎055-935-5010  
E-mail cul-bunkazai@city.numazu.lg.jp  
令和2年3月13日発行



沼津周辺の城郭(1580年ごろ)

和暦(西暦)	できごと
伊勢氏 長享元年(1487)	この頃、伊勢新九郎盛時(伊勢宗瑞、北条早雲)が今川氏親より興国寺城を与えられる。
北条氏 明応2年(1493)	盛時、伊豆韮山の足利茶々丸を攻める。…東国における戦国時代の始まり
今川氏 天文18年(1549)	今川義元、興国寺を移転させ、跡地に城を普請。
永祿11年(1568)	武田信玄が駿河侵攻。北条氏政も駿河に進出し、興国寺城を占領する。
北条氏 永祿12年(1569)	北条氏政、塀和氏統を興国寺城主に任命。
元龜元年(1570)	武田信玄、興国寺城を攻めるが塀和が撃退する。
元龜2年(1571)	北条氏と武田氏和睦。興国寺城は武田方の城へ。
天正7年(1579)	北条氏と武田氏の同盟が破棄、再び戦となる。
天正8年(1580)	穴山梅雪、興国寺城に天神ヶ尾砦の門を移築。
天正10年(1582)	織田・徳川連合軍が武田氏を攻め滅ぼす。本能寺の変が起きる。徳川家康家臣の牧野康成が城番となる。その後、松平清宗が城主となり、城を改修する。
天正17年(1589)	大地震で興国寺城の堀(と二階門)が破損。
天正18年(1590)	豊臣秀吉の小田原攻めが行われ、北条氏滅亡。徳川家康は関東に移封となり、代わって中村一氏(豊臣氏家臣)の重臣である河毛重次が城主になる。
慶長6年(1601)	関ヶ原の戦いで家康率いる東軍が勝利。徳川氏重臣の天野康景が城主となる。
慶長12年(1607)	天野康景、部下の領民殺傷事件の責任をとり城を棄てる。興国寺藩は取り潰しとなり、興国寺城は廃城となる。
平成	平成7年に国の史跡に指定される。 平成29年、続日本100名城に選定される。

## 興国寺城跡の見どころ

興国寺城は、愛鷹山から続く尾根の先端を利用して、北から、北曲輪、伝天守台、本丸、二ノ丸、三ノ丸、と直線的に配され、谷を隔てた東側にも清水曲輪が造られています。

地中には様々な遺構が埋まっていることが発掘調査で確認されています。現在整備途中であるため、地中の遺構は見ることはできませんが、地上に構築された本丸大土塁や伝天守台、大空堀は見学可能でその巨大さは見ごたえ十分です。

赤い番号・・・現地で見られるもの

青い番号・・・地中に埋まっているもの

## 3 伝天守台と大空堀

16世紀末～17世紀初頭

興国寺城の中で最も標高が高いこの位置には礎石の建物と石垣が造られました。伝天守台の北側には幅約30m、深さ約20mの巨大な堀が城を守っています。



伝天守台



石垣



大空堀



## 発掘調査で見つかった主な遺構



4 北曲輪 空堀 1 16世紀後半以降



5 清水曲輪 空堀 16世紀後半



6 本丸虎口 (出入口) 門跡 16世紀末～17世紀初頭



7 三ノ丸柱穴群 16世紀中葉以降

## 1 高尾山穂見神社 幕末



初代城主北条早雲 (右) および最後の城主である天野康景の碑 (左) があります。

## 2 本丸大土塁と伝天守台



本丸には巨大な土塁が巡っており、その上には伝天守台が備わっています。中央に写っているのが高尾山穂見神社です。



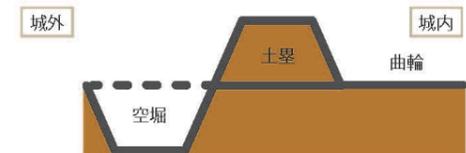
駿州真国寺古城図 (国立国会図書館蔵) 江戸時代に描かれた興国寺城の絵図です。



興国寺城跡概念図

## 城郭に関する専門用語

- こぐち 虎口・・・城の出入口の総称。小さく出入口を築くので小口とも呼ばれたのが語源とされる。
- からぼり 空堀・・・水のない堀。底は通路に使用されることもある。
- どるい 土塁・・・土を盛って築いた土手。敵の侵入を拒む役割を持つ。
- くるわ 曲輪・・・人工的に造り出した平坦地のこと。



空堀・土塁・曲輪の関係

城の歴史や発掘調査の詳しい説明はこちらからダウンロードできます

